

神楽名

# めら 米良神楽

伝承地

しろみ 銀鏡神社

西都市大字銀鏡地区

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

銀鏡神楽保存会

代表 甲斐 公成



ししとぎり

## ◆ 神楽の概要・由来・その他

米良神楽（銀鏡神楽）は宮崎県で最初に国の重要無形民俗文化財に指定された。銀鏡は急峻な山地に囲まれ、古くから山間斜面を伐り開いて雑穀等を収穫する焼畑が行われてきた。焼畑耕作は山から出没する鳥獣の被害がおびただしく、特に猪害は甚大で、人々の生活は農耕と共に狩猟も重要な要素となった。米良神楽の特徴に狩法神事があるが、これは古くからの重要な生活要素が表現されたものと言える。伝承地の銀鏡神社は、霊峰龍房山を御神体とし山岳信仰を中心として発展した神社である。天和年間（1681～1684）に銀鏡神社社家の祖先が鶴戸山道場で修練した鶴戸神楽と鶴戸鬼神舞を伝え、これが従来の神楽に強く影響し発達したものが現在に伝承されている。

修験道や陰陽道、両部神道が織り込まれる中、江戸後期に唯一神道の影響を受け、問答や唱教から仏教色が一掃されているのが特徴である。

## ◆ 芸能の機会・場所

- 銀鏡神社例大祭 銀鏡神社及び神楽殿前の祭場（外神屋）で奉納

12月12日:門注連祭

13日:星祭り1番「星の舞」

14～15日:前夜祭2番～33番

15日:本殿祭

16日:六社稲荷祭、ししば祭り

- 小祭り 六社稲荷、銀京山、瑞仙山神社、祖霊社等で奉納

## ◆ 演目一覧

星の舞

清山

花の舞

じわり  
地割

鶴戸神楽

鶴戸鬼神

へいさし  
弊指

西之宮大明神

住吉

宿神三宝荒神

わかお  
若男大明神

はさんまい  
初三舞

六社稲荷大明神

七社稲荷大明神

かんし  
神崇

しろうん  
荘殿

柴荒神

一人劔

かんなぎ  
神和

綱荒神

綱神楽

伊勢神楽

手力男神

とがくし  
戸破明神

びやっかい  
百蓋鬼神

オキヘ

へや  
室の神

七鬼神

獅子舞

みかさ  
衣笠荒神

くりおろし  
鎮守

ししとぎり

神送り

## ◆ 演目の特徴

「西之宮大明神」と「宿神三宝荒神」を重要演目に位置付け、最高の神格で神庭に迎える。銀鏡神社主祭神「西之宮大明神」は宮司が舞う決まりで、禰宜が先導し警護の弓を携えた籠持ちが続ぎ、法螺の吹鳴と供に出座する。舞庭中央天（天蓋）の下で、ゆったり腰をおとした威厳ある舞を演じる。（宿神社主祭神「宿神三宝荒神」も同様）この二演目は銀鏡神社両神と呼ばれ、舞のとき囃すことは禁止されている。

銀鏡では焼畑等の農作物を猪の被害から守るために狩猟を行い、またその肉も山の恵みとして感謝し食用とした。山の神への畏敬の念と猪の鎮魂を込め「ししとぎり（猪の足跡を辿る意）」や「ししば祭り」など狩猟に関する神事が多く含まれている。16日「ししば祭り」は狩法神事とも呼ばれる重要な祭事の一つである。

## ◆ その他の特徴

- 面... 西宮大明神、宿神三宝荒神の面が県有形文化財として指定されている
- 楽... 笛、締め太鼓、すり鉦、楽板
- 装束... 宿神三宝荒神の衣装を保管している木箱に天保3年（1832）の墨書あり
- 採り物... 太刀大小、脇差、鈴、扇、弓矢、モッソウ飯型、杓子、杓文字、播り粉木、テゴ等
- 文書... 銀鏡神社御神楽由緒、銀鏡神社御神楽間書が残されている。また神楽歌集舞方解説、式33番解説が銀鏡神社や西都市教育委員会によって作成されている。

## ◆ 伝承の現状・課題

神楽を継承する祝子は12家に限られるが、12家以外でも希望する者は願祝子として神楽に参加する制度があるので、神楽の維持・継承がされている。若い祝子には銀鏡地区外からの参加もある。



西宮大明神



宿神三宝荒神



宿神三宝荒神上衣